

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	1195100118		
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ新座		
所在地	新座市東北1-3-15		
自己評価作成日	令和7年2月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地
訪問調査日	令和7年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活の中では、生活リハビリの一環として洗濯物たたみや日用品等の準備などのお手伝いを職員と一緒にしております。また、ゴミ捨てがてら近くに散歩に出かけたり、ご家族との外出も昨年よりも頻繁にしております。イベントやお誕生日会などの計画も積極的に取り組み余暇の充実を図っています。その他、入居者様にとっていつまでも居心地良く、安心・安全に生活していただく為にも施設内の環境整備に力を入れています。毎朝の掃除をはじめ、スタッフごとに役割分担をし、より良い生活空間になるよう努力しています。また、季節ごとにあった装飾を室内に飾ることで季節感を出しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東武東上線志木駅より徒歩10分、幹線道路から1本入った住宅に囲まれた静かな環境にある、3階建て2ユニットのグループホームである。1階には小規模多機能型居宅介護が併設されている。ホームでは、生活リハビリの一環として毎朝入居者と共に清掃を行い、洗濯物たたみや日用品の準備などを皆で行っている。また、環境整備にも力を入れ、居心地よく安心して過ごしていただけるよう取り組んでいる。経験豊富な職員も多く、職員同士が密にコミュニケーションを取りながら、一人ひとりに寄り添い、その方らしい生活が送れるよう支援している。また、法人として教育体制も充実しており、職員は学びの機会を多く持ち、知識を活かした支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念は全職員意識しサービス提供している。他、施設スローガンと職員スローガンをスタッフと共に決め行っている。施設スローガン:「ご利用者一人一人に寄り添い、その人らしい生活を営める笑顔あふれるホームにしよう」	スローガンをフロアに掲示し、職員が常に目にできるようにしている。また、研修を実施し、スローガンを意識した支援を行っている。勤続年数の長い職員も多く、職員同士がコミュニケーションを取りながら理念の共有に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者のご家族やご友人も近隣にお住まいの方も多いためよく面会に来てくださる。自治会長さんもお近くのため、よく連絡を取っている。	自治会に加入し、地域の情報を積極的に収集している。施設は市の集会所の利用申し込み場所にもなっており、地域住民の来訪も多い。近隣の方に施設内の様子を見てもらったり、会話を交わしたりする機会も多く、日常的に地域との交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で日頃の様子や認知症に関しての意見交換を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括、行政、自治会長、ご家族出席のもと運営の状況の報告等を含め密な情報交換を行っている。	運営推進会議は、小規模多機能施設と合同で集会所を利用し、民生委員、自治会、地域包括支援センター、家族、入居者、行政などの参加を得て、2か月に1回開催している。会議では運営報告やそれに関する質疑応答、要望なども出され、寄せられた意見をサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括、行政とは常に連携を図っている。	運営推進会議の際には情報共有や報告を行っている。その他、入居希望に関する相談など日常的に連絡を取り合い、協力関係の構築に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修は、少なくとも2ヶ月に1回は実施している。その他、問題点があれば随時話し合いを持ちケアにあたっている。	委員会は2か月に1回、全体研修は年2回実施している。その他、2か月に1回、代表が参加する研修も行われている。職員はこれらのさまざまな機会を通じて学びを深め、拘束を行わないケアを目指して認識を高めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しても、少なくとも年に1回は研修を実施し職員等の学ぶ機会を持っている。また、職員へのストレスマネジメント研修なども行い、虐待のない環境作りに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後独居の方が増えている中で金銭のトラブルもあるかと思います。そうした際に適正な知識を持って様々な制度を活用できるよう研修していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い納得されてから、署名・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価の意見も参考にしつつ、常に問題意識を持ちサービス提供をしている。	家族の面会時や電話連絡時に要望や意見を聞いている。家族から寄せられた要望や意見は職員間で情報共有し、実施可能なものは対応するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のスタッフ会議とカンファを30分ずつ行い問題提起している。	毎月のスタッフ会議では、職員が活発に意見を出している。また、カンファレンスでもケアに関する多くの意見が出されており、介護スケジュールの見直しを行うなど、意見を反映させている。管理者は日常業務の中でも職員の意見を積極的に聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1～2回、個別面談を実施している。問題が大きい時は、本社からアドバイザーが来てさらに個別面談を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修が本社総合研修所で行っている。自主参加だが地域開催なども行っており参加し学んでいる。その他、施設内研修も月に1回30分研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に他事業所の施設長の参加しており情報共有を行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望を聞きつつ、その他不安を解消出来る環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安な点についての説明、又は施設見学も等もして頂いてる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	経済的面からも、ご家族の負担にならないようあらゆる可能性も踏まえ提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的で温かいサービスがミモザの理念でもあり、その理念のもと実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の介護力を理解し、ご本人の同意のもとサービス提供している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	予約をしていただいた上でのご家族・ご友人・近隣の方の面会訪問を受け入れている。	予約制により、ご家族・ご友人・近隣の方の面会や訪問を受け入れている。また、家族と外出する入居者もあり、外出時には必要な支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク・リハビリ等共通の楽しみをみつけ参加していただき、孤独な環境を作らないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの要望があればいつでも対応いたします。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリングを通して実施している。	会話ができる入居者とは、日々の生活の中で気づいたことを職員間で情報共有している。月1回のモニタリングの機会や家族からの情報、生活歴なども把握しながら、入居者の意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅での生活情報なども職員間で共有しつつ、生活の中で出来るだけ、使い慣れたなじみの物を持ち寄って頂き、少しでも安心していただけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の生活動作はご本人の能力を見極めつつお声掛けしながら行っている。体操や脳トレ・リハビリ等への、参加の意志はご本人の意志を尊重しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回モニタリングを通して実施している。	月1回のモニタリングを実施し、6か月ごとに介護計画の見直しを行っている。カンファレンスでは、職員の意見や家族の要望などを話し合い、現状に即した介護計画を作成している。入居者の状態に変化があった場合には、その都度計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア記録のほか、職員間の連絡ノートにて日々の変化の確認を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限りご本人の趣味・趣向を尊重している為、医師と相談しつつ健康上差し支えなければ飲酒や喫煙の趣向品も入居後でも続けていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われている、イベントへの参加などを通して地域社会との交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後は基本、こちらの提携医院が一人に対し月二回往診にて健康管理をしてくださっている。その他、かかりつけ医への受診に関してはご家族対応にて行っていただいている。	訪問医は月2回、歯科医は週1回、訪問看護は週2回来訪している。訪問医とは24時間連絡を取れる体制を整えている。専門医の受診については、家族による対応で行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は、週2回4時間ずつ来ていただいている。看護師の記録も作成している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時・入退所毎に病院との情報提供は相談員と行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に施設で行える最大限のケアについての説明は行って会社としても看取りについては前向きな研修を行っていて、実際グループホームとしても対応をしている施設もある。	入居時に重度化や看取りに関する指針を説明し、入居者および家族の意向を確認している。重度化した場合には家族の意向を再確認し、看取りを希望する場合は、医師、家族、職員で話し合いを行い、希望に沿った看取りを実施している。併せて、職員を対象とした研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応の研修は頻繁に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設として年二回実施している。	年2回、小規模多機能施設と合同で入居者も参加する夜間想定避難訓練を実施している。訓練では、火災や水害時の垂直避難を含め、実際の車椅子での避難状況や徒歩での階段昇降の状況なども確認している。業務継続計画や備蓄品も準備しており、災害時に備えている。ただし、地域の防災訓練への参加は予定していたものの、実施できなかった。	今後、地域の防災訓練に参加することや、施設の防災訓練にも民生委員などを通じて声掛けを行い、地域住民の参加を促進することを希望する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修は、新職員には必ず一番始めに実施している。その他、年一回全職員に対しても行っている。	接遇研修として、新入職員には入職時に研修を実施し、全職員にも年1回研修を行うことで意識を高めている。声掛けについては、親しみやすさと人格を尊重した対応のバランスに配慮し、適切な距離感を保つようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご利用者の意思を確認するケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々生活していく中で、パターンはあるが無理にそれを押し付けることなく、その方の都合や体調に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の衣類選択や整容など、出来るだけご本人に行っていただいている。実費にはなるが、訪問美容も提携しており、ご利用されている入居者様も多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃のメニューに季節感を感じていただくと共に手作り料理を通して行っている。	行事食や季節感を味わえるメニューを取り入れるなどして、食事を楽しんでもらっている。また、時には調理段階から入居者にも参加してもらい、手作り料理を楽しんでもらっている。できる方には、食器拭きやお盆・テーブル拭きなどを手伝ってもらい、生活リハビリにもつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェックはその都度行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは毎日行っている。実費にはなるが、訪問歯科と提携しており、義歯の調整や口腔ケアなど定期的に全員ご利用していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	車椅子の方でも、立位がとれれば声かけなどにてトイレ誘導し排泄して頂くよう努めている。出来ない事のみお手伝いさせていただいている。	立位が可能な方には、基本的にトイレで排泄できるよう、定時や随時の声掛けを実施している。トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行い、できる部分はできる限り自分で行ってもらい、できない部分のみ支援することで自立を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫はもちろん散歩や体操など少しでも体を動かして便秘予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日などは決まっているが個人の希望なども踏まえ臨機応変に対応している。	週2回、1対1でゆっくりと入浴できるよう支援している。入浴時には職員とゆっくり会話ができるよう配慮し、個々の状態に合わせた支援を行っている。入浴剤を使用することで香りも楽しめるようにし、リラックスできる時間を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活歴や習慣を理解することでその方にとって無理とならないよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日にち、朝・昼・夕等に分けられるものに対してスタッフが誤薬のないよう声だしの確認などをしながら二重・三重の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活スペースを有効に使いながらレク等にも参加していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は、天候や体調に合わせて無理のない範囲で行っている。その他、外出や企画レクなども行っている。	季節の良い時には散歩に出かけている。また、家族に協力してもらい、外出の機会を持てるよう支援している。今後は、外出を伴うレクリエーションの企画も検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族との話し合いを含めて、ご本人の意向を大切にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との会話を希望された時は、施設の電話をお貸ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物なども工夫しながら明るい印象や季節感が出るようにしている。その他、居室の入り口に暖簾かけがある為、ご希望の方は設置して頂きプライバシー保護に努めている。	開口部が広く、共用部分には明るい陽射しが差し込み、暖かな雰囲気の間となっている。ソファなども配置され、入居者が思い思いの場所でくつろげるようにしている。季節の作品を展示したり、花を活けたりすることで季節を感じられる居心地の良い空間づくりに努めている。また、換気や温度調節にも十分配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置などを工夫したり、席替えなどもしながら一人ひとりが居心地の良い空間となるよう工夫している。ソファも置いているため思い思いに過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人やご家族様と相談させていただき、なじみのものを持ち寄って居心地の良い空間として生活できるようにしていただいている。	ベッド、チェスト、収納棚が備え付けられており、入居時には本人が使い慣れた椅子や仏壇、テレビ、アルバムなどを思い思いに持参し、安らげる空間となるよう工夫している。清掃が可能な方には、職員と一緒に清掃を行ってもらい、自立支援にもつなげている。	

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	施設での避難訓練に近隣の住民の参加が出来ていない	施設での避難訓練に近隣の住民の参加	運営推進会議での参加の呼びかけや施設の入り口に参加を呼び掛けるポスターの作成	6ヶ月
2	20	感染症対策の観点から面会・外出の際制限をさせていただいている	本人・家族・友人の面会・外出・外泊の希望を制限なく自由に行う事が出来る	感染症の対策を行いつつ本人・家族・友人の希望を把握して希望に沿った面会等を模索し実現可能にしていく	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。